

## 2020年室蘭市 中島商店街のBCPを考える②「室蘭市の災害の歴史について」

日時	令和2年10月22日(木) 18:30~19:30
場所	中島商店会コンソーシアム『ふれあいサロンほっとな〜る』
参加者	12名
講師	防災士 菅野 三知博 氏

### ■未曾有の災害

平成23年3月11日の東日本大震災で被害に遭った大槌町役場、南三陸町防災センター、北三陸鉄道等は、震災を伝える貴重な資源であると考えます。また、釜石では、海から4km離れた大川小学校で、ほとんどの方が亡くなったが、鶴住居小学校と釜石東中学校の生徒は、高い場所に避難したおかげで全員助かった。これにより普段の防災教育の重要性が実証された。

平成30年9月6日の胆振東部地震では、厚真町で斜度が30度に満たない場所でも土砂崩れが発生した。また、平成26年9月27日の木曾御嶽山噴火では、3,000m級の山で、紅葉の時期、快晴の土曜日のお昼時に噴火したため、死者58名、行方不明6名の被害が出た災害。今後も想定外の災害が発生することがあるということを認識しておく必要がある。

### ■身近で起きていた災害

有珠山噴火は1910年、1977年、2000年に起きている。また、平成26年11月には、ツールド北海道で使われていた洞爺湖町の伏見橋が落橋する事例が発生している。

### ■室蘭市の災害を知る

室蘭の災害で一番古い歴史は寛永17年の駒ヶ岳噴火であり、アイヌの伝承にもあり、記録に残る最初の災害である。また、昭和25年には、大雨が降って白老の橋が落ち、列車が乗り上げた災害もあった。室蘭を襲った水害で最大級の災害は、昭和55年災害で、中島商店街では商品が水浸し、大打撃を受けた。またその翌年も発生し、高平町が最も被害が大きかった。

その後は、平成24年11月26日、登別の鉄塔が強風で倒れて停電になった災害で、5万5千戸が停電となった。登別地区で4日間、中島地区で2日間であった。知利別川の杜下橋付近の観測所でも被害が起これ得る。また、ガソリンスタンドが長い行列となり、スーパーに何も無くなった。これは、事前に準備をしていなかった結果であり、自助が大事である。

### ■学ぶ・備える・行動する

室蘭の津波の襲来は大黒島が守っているが、駒ヶ岳が噴火すると津波は避けられない。

アイヌ語から旧災害が予測でき、サン、シノロ等は昔災害が起きた場所につけられた地名である。また、旧地図から災害が予測でき、フシコ知利別川が危ない。

身近な安全対策としては、非常品の準備、特に夜の対策が大事であり、灯り、足元を守る物、防寒着等が重要である。

防災の合言葉は、絶対災害に遭わないという『正常バイアス』を捨て、『まさか』を『もしも』で備えることである。また、『世代を超えて、受け継ぐ・伝える・広げる』ことも重要なことである。



【講義状況】



【講演状況】